

## 第2 地域療育センター運営事業

地域療育センターは、横浜市が策定した「障害児地域総合通園施設構想」により設置された地域における療育の中核施設として、障害又はその疑いのある小学生までの児童とその家族が、地域の中で安心して生活できるよう、関係機関と連携しながら運営を行っています。

今年度も、これまでの地域療育センターの枠組みに捉われず、利用者や関係機関のニーズを的確に把握しながら、引き続き質の高いサービス提供を行い、利用者満足度の向上に努めました。

今年度、地域療育センター全体として重点を置き、実施、対応した項目は、次の3項目です。

### ◇ 一次支援（初期支援）の導入・拡充

相談から始まる初期支援として、利用開始時のソーシャルワーカーや心理士・保育士との面談に加え、相談開始直後の不安や子育ての困り感の強い保護者には、早期に心理相談を設けるなど、一次支援の本格導入準備や拡充に取り組みました。また、親子で一緒に遊べる広場事業として、児童には遊びのプログラムを提供し、保護者にはソーシャルワーカーや保育士等と気軽に相談できる場を設定し、保護者の不安軽減に繋げました。

### ◇ 次期指定管理者の指定

戸塚、北部及び西部の各地域療育センターでは、5年間の指定管理期間の最終年度を迎え、横浜市の指定管理者選定委員会により、これまでの実績と次期5年間の事業計画等の評価を受け、次期指定管理者として指定されました。

### ◇ 支援の拡充

地域療育センターの利用者の増加、ニーズ・状態像の変化や多様化に対応するため、グループ（クラス）の柔軟な編成等各センターとも支援のバリエーションのさらなる拡大と充実を図りました。

センター名	主な担当区
戸塚センター(児童発達支援事業所「ぴーす東戸塚」を含む。)	戸塚・泉
北部センター(児童発達支援事業所「ぴーす中川」を含む。)	緑・都筑
西部センター(児童発達支援事業所「ぴーす鶴ヶ峰」を含む。)	保土ヶ谷・旭・瀬谷
港南センター(児童発達支援事業所「ぴーす港南」を含む。)	港南・栄

また、各地域療育センターにおいて重点を置き実施した項目は、以下のとおりです。

### ◇ 戸塚センターでは、令和6年度から本格稼働する一次支援の準備として、広場事

業と心理個別相談の運営や体制の課題整理をしました。また、地域支援に注力して、保育所・幼稚園等の関係機関情報等について、多職種で共有しました。

- ◇ 北部センターでは、民間事業所等が多いエリア事情から、エリア内の中核機能の役割の整理が必要と考え、ソーシャルワーカー面談や心理士・保育士の相談、広場事業、園訪問等の一次支援を含めたタイムリーな支援・サービスが提供できる人員・場所等の体制を整えました。
- ◇ 西部センターでは、ぶらんちスペースでの一次支援メニューを、インテーク面談、年齢別に目的を特化した広場事業、心理士や保育士による発達相談、園訪問等の地域連携と整理しました。また、場所が離れているぶらんちスペースと本館で時間差のないケースマネジメントを行う仕組みを構築し、安定的な運営体制につながる土台を構築しました。
- ◇ 港南センターでは、広場事業、保育士相談とも回数を拡充して実施しました。また、ぴーす・ふたば等集団療育を経験したベテラン職員を一次支援に配置し、保護者へ先を見据えた情報提供、対応等の助言、相談を行いました。

## 1 相談

- ◇ 一次支援の広場事業の実施数を増やすとともに、同じメンバーが連続参加するグループを設定する等、理解や気づきが深まるよう実施しました。心理士相談では、保護者に分かりやすく伝わるよう書面等を工夫して、対応をしました。
- ◇ 西部センターでは、発達障害のある不登校児の保護者同士のピアグループを開催し、その中で当事者にしかできない励まし合う姿がみられる等、定期利用につながりました。グループワークを通じて、家族のプラスの側面に気づく保護者も多く、グループ終了時に前向きな感想が多く聞けました。
- ◇ 戸塚センターでは、一次支援サービスの心理士相談で保護者の精神的なサポートをしながら、リーフレット等で児童の特性理解や子育てに活かせる情報を提供しました。また、「tunagaru-つながるウェブサイト-」を活用した講座配信にも積極的に取り組みました。

(実績：全科利用申込数)

※( )内は昨年度

	幼児		学齢		合計	
戸塚センター	671人	(700人)	88人	(100人)	759人	(800人)
北部センター	580人	(618人)	171人	(166人)	751人	(784人)
西部センター	684人	(716人)	165人	(187人)	849人	(903人)
港南センター	402人	(483人)	86人	(90人)	488人	(573人)

## 2 診療・訓練

- ◇ 診察や訓練の枠を柔軟に調整することに加えて、保護者向けに、初再診までの流れ等を示したインフォメーションペーパーを作成して、今後の見通しや利用の流れが分かりやすい工夫をしました。
- ◇ 保護者支援プログラムについて、講座内容によってオンライン配信と会場形式でのハイブリッド開催を実施しました。保護者にとっては、利便性のあるオンライン配信の評判が良く、高い満足度が得られました。

(実績)

※( )内は昨年度

センター名	診察数	各種訓練数	外来集団療育数
戸塚センター	2,660人 (2,633人)	5,623件 (5,183件)	169人 (177人)
北部センター	3,131人 (3,478人)	5,633件 (6,429件)	145人 (136人)
西部センター	2,847人 (2,705人)	6,282件 (7,751件)	95人 (108人)
港南センター	2,378人 (2,515人)	5,282件 (5,955件)	145人 (137人)

### 3 集団療育

#### (1) 医療型児童発達支援 (戸塚・北部・西部：定員 40 人、港南：定員 30 人)

- ◇ 全身を使った遊びや季節感のある遊び等、プログラムにバリエーションを持たせ、行事と連動させました。また、登園頻度や登園曜日の異なる保護者について、親子で一緒に登園する通園日を変則的に組み替え、保護者同士の懇談の回数を増やす等、一体感を持てるよう工夫しました。
- ◇ 医療型発達支援と合わせて、多機能型の施設を利用する児童が増えてきている中、関係機関と児童への対応や保護者の状況を共有するカンファレンスを実施しました。情報を共有化したことにより、それぞれの施設・機関での連携がスムーズに行え、家庭生活の安定につなげることができました。
- ◇ 北部センターでは、2歳児の週1療育を実施しました。低年齢から児童の状態を共有することができ、次年度の処遇や家庭での対応について支援しました。児童の状態像に応じて開始時期や頻度は統一ではなかったものの、3歳児の分離・単独通園療育も試み、個々の状態を確認して進めました。
- ◇ 港南センターでは、親子で一緒に登園する通園日に実際に療育的な支援を用いて児童に関わる機会を設けました。保護者も療育的な関わりを積み重ねることで、主体的な関わりが増えました。また、園外活動等を見据えプログラムを段階的に展開し、必要な支援や行動予測をする機会を設け、保護者による児童の特性理解を支援しました。

(実績)

※( )内は昨年度

センター名	継続利用児	新規利用児	合計
戸塚センター	10人 (10人)	3人 (8人)	13人 (18人)
北部センター	12人 (8人)	8人 (10人)	20人 (18人)
西部センター	11人 (15人)	4人 (6人)	15人 (21人)
港南センター	7人 (10人)	19人 (18人)	26人 (28人)

#### (2) 児童発達支援 (戸塚・北部・西部：定員 50 人、港南：定員 60 人)

- ◇ 児童が安定して活動できることを基本に療育プログラムを実施しました。個々の発達や特性に合わせた課題を展開する中で、保護者と一緒に次年度サービスの内容や頻度を検討しました。
- ◇ 戸塚センターでは、地域集団を併用しない週5クラスで「運動プログラム」「園外プログラム」等を通じて日常の療育の成果を確認したり、クラス内の保護者とも共有することで、保護者間の一体感を図りました。また、児童の作成した「作品展」は、療育時間以外も会場の開放時間を延長することで、他クラスの作品も観覧でき

るようにしました。

- ◇ 西部センターでは、通園開始までの間に設定されているつなぎグループを経て入園した児童が多かったため、新入園児が多い年度となりました。保護者支援を段階的に行うため、保護者勉強会の内容を見直し、より細かなステップを踏んで学べるよう支援しました。また、職員研修では、経験年数や役割に合わせて実施し、個々のスキルアップと情報の共有化を図りました。

(実績)

※( )内は昨年度

センター名	継続利用児	新規利用児	合計
戸塚センター	46人 (46人)	72人 (76人)	118人 (122人)
北部センター	46人 (54人)	50人 (56人)	96人 (110人)
西部センター	39人 (32人)	50人 (33人)	89人 (65人)
港南センター	57人 (45人)	65人 (61人)	122人 (106人)

### (3) 児童発達支援事業所「ぴーす」 (戸塚・北部・西部・港南：定員 48人)

- ◇ ぴーす利用児の施設だけでなく、相談部門とも連携しながら、保育所・幼稚園・学校等の関係機関を巡回訪問しました。また、園の先生等に、自分の担当している児童の療育場面での様子を客観的に見ていただく療育参観を実施し、懇談を通じて児童の共通理解を図り、連携を強化しました。
- ◇ 港南センターでは、年長児を対象に、ラポール上大岡への園外活動を実施しました。ラポール上大岡と情報共有をし、卒園後、学齢期に利用しやすい仕組みを構築しました。卒園児フォロープログラムでは「友達づきあい」「ボランティア体験」等、発達課題に応じた内容をソーシャルワーカー、心理士と企画し実施しました。
- ◇ 北部センターでは、卒園児フォロープログラムについて、電話相談と保護者会を実施しました。保護者会は、学年ごとに実施しましたが、学校支援担当のソーシャルワーカーも参加して、様々な交流を図ることができました。また、3年生をぴーす・ふたば合同で実施して、4年生以上は他センターと合同で実施する取組を行いました。

(実績)

※( )内は昨年度

センター名	継続利用児	新規利用児	合計
戸塚(ぴーす東戸塚)	12人 (37人)	36人 (11人)	48人 (48人)
北部(ぴーす中川)	16人 (10人)	32人 (39人)	48人 (49人)
西部(ぴーす鶴ヶ峰)	28人 (29人)	33人 (35人)	61人 (64人)
港南(ぴーす港南)	18人 (28人)	24人 (34人)	42人 (62人)

## 4 地域支援

- ◇ 地域の子育て支援機関を対象に言葉の発達に関する講座をオンラインで行いました。児童の発達に不安を感じている保護者や支える支援者に対し、療育センターの専門スタッフの話を身近に触れていただく機会となりました。また、子育て支援拠点への出張相談で支援者の後方支援を行うことで、発達に心配がある児童を地域と一緒に支えていく取組を連携・共有できました。
- ◇ 他部門のスタッフと協働で、関係機関へ訪問支援を行いました。直接的な支援技

術の普及に尽力した他、区が開催する保育施設職員研修会や施設長研修への講師派遣等支援力向上に取り組みました。

(実績：0歳4か月療育相談)

※( )内は昨年度

センター名	回数	人数	センターへの紹介数
戸塚センター	12回 (12回)	101人 (78人)	7人 (5人)
北部センター	9回 (10回)	57人 (58人)	6人 (7人)
西部センター	12回 (12回)	106人 (118人)	5人 (6人)
港南センター	11回 (12回)	45人 (64人)	0人 (3人)

(実績：1歳6か月療育相談)

※( )内は昨年度

センター名	回数	人数	センターへの紹介数
戸塚センター	4回 (6回)	11人 (10人)	6人 (4人)
北部センター	5回 (5回)	7人 (9人)	2人 (5人)
西部センター	5回 (6回)	14人 (10人)	9人 (5人)
港南センター	3回 (2回)	5人 (3人)	4人 (1人)

(実績：関係機関技術支援)

※( )内は昨年度

センター名	機関数・延べ回数			
戸塚センター	119か所	・148回	(107か所	・123回)
北部センター	145か所	・302回	(260か所	・283回)
西部センター	161か所	・261回	(154か所	・235回)
港南センター	95か所	・127回	(120か所	・258回)

(実績：学校支援事業)

※( )内は昨年度

センター名	学校数・延べ回数			
戸塚センター	15校	・20回	(9校	・12回)
北部センター	16校	・23回	(18校	・34回)
西部センター	19校	・26回	(13校	・14回)
港南センター	8校	・9回	(12校	・18回)